



北山田小だより



横浜市立北山田小学校
校長 滝川 尚美

全力で。やさしく。

副校長 二瓶 亜希子

ドクロ池の蓮の花



紫陽花の花の色が、青から紫や赤に変化する季節になりました。早めに出勤した朝、北山田小のドクロ池を見ますと、蓮の花がひっそりと、でも色鮮やかに一つ二つと花を咲かせています。こんな日は、朝から何だか得した気分になります。

はじめまして。この春、桜の花びらが散るころ、北山田小学校に赴任してまいりました二瓶 亜希子と申します。赴任して3か月が経ちました。元気な子どもたち、心温かい保護者の皆様や地域の皆様との出会いに、日々感謝しています。

さて、今週に入り、プール開きに合わせたかのように、にわかには暑くなってきました。マスクをつけない子どもたちのとびきりの笑顔も、熱を帯びています。水泳学習だけではなく、4月から徐々に、新型コロナウイルスが流行する以前の教育活動を取り戻しています。体育館で当たり前のように全校児童が一堂に会し、朝会や集会が行うことも3年ぶりですが、今では当たり前の光景になりました。

さまざまな点で「制限」がなくなったことで、子どもたちは「全力」で学び、遊び、コミュニケーションを取っています。先日、5年生と一緒に道志村へ宿泊体験学習に行ってきたのですが、まさに「全力で」の子どもたちの姿を目の当たりにしました。1日目はあいにくの雨模様でしたが、5年生の気持ちは快晴といったところでしょうか。雨の中での田植え体験は、時間を短縮して行いましたが、終わりの合図がかかるころには「もっとやりたい！」の声。キャンプファイヤーから変更となったキャンドルファイヤーは圧巻でした。火の神・火の子のアトラクションこそ厳かな雰囲気で行っていましたが、ジンギスカンでウォーミングアップ、昆虫太極拳で舞い、爆弾ゲームでドキドキ、アブラハムの子を踊り、仲間集めゲーム「道志村へ行くよ」で仲を深め…。ずっと動きっぱなしのはしゃぎっぱなしといった体です。出発式で（あるいは日頃からかもしれませんが）合言葉のようにになっていた「全力で楽しもう」という姿そのものでした。

集団として「全力で楽しむ」ことができる姿からは、どんな状況でもそれを楽しんでしまうポジティブな思考だけでなく、①ルールをきちんと聞くときは聞く「切り替え」、②ルールを守る「規範意識」、③羽目を外しすぎない「節制心」、そして、④司会者をはじめゲームを企画運営する側のみならず、みんなを楽しませたいという思いと同時に、参加する側の運営側に協力する「仲間への思いやり」も感じ取れるのです。歩行時に「前との間があいたよ、つめて。」と、田植えの説明中には「今は話を聞く時間だよ。」と、やさしく（高圧的な注意の仕方ないところがすばらしい！）声をかける子がいました。また、林業体験のコースターづくりでは「早く切れよ。」と友達をせかす言葉に対して、「その言い方は…。その人にはその人のペースがあっていいんじゃない。」という考えを伝えている子を見つけました。友達へのやさしさや思いやり、他者を認めたり尊重したりする気持ちが育っていることに感心しました。

他者への思いやりの気持ちは、北山田の子どもたちの「拍手」にも表れています。集会等で、何かの代表で前に立って話す人や授業中の友達の発言に対して、様々な場面で、本当に自然に拍手を送っているのです。ときには、先生に対しても。

これからも、北山田の子どもたちの全力とやさしさをたくさん見つけ、たくさん褒めていきたいと思っております。



全力で楽しむ！5年生